



コスモ石油エコカード基金
活動報告書2011

第9期：2010年4月1日～2011年3月31日

地球のために、未来のために、
みなさまの支援が役立ちました。



コスモ石油
エコカード基金

ずっと地球で暮らそう。

2011



理事長メッセージ



コスモ石油エコカード基金
理事長

森川 桂造

10年目を迎え、これまで以上に会員の皆さまとともに。

このたび、コスモ石油エコカード基金理事長に就任いたしました森川桂造と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

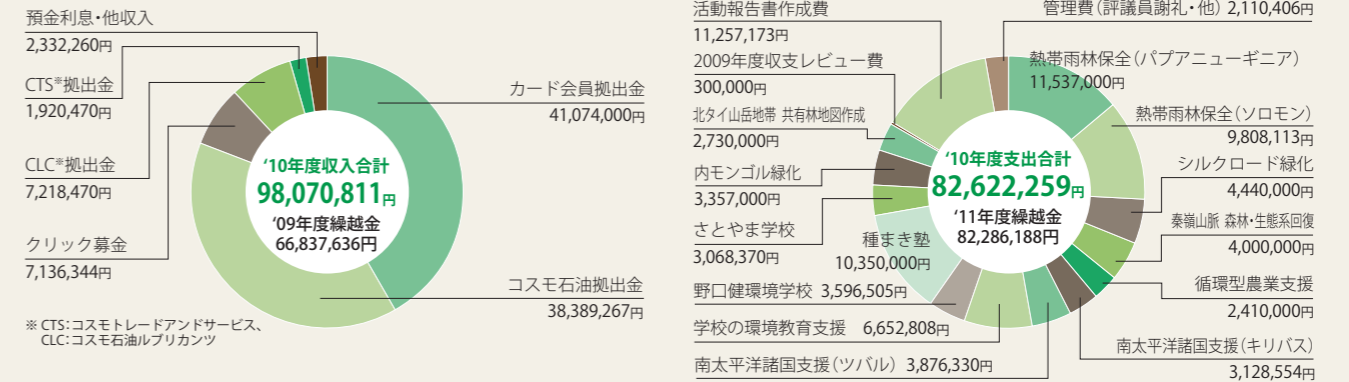
コスモ石油エコカード基金は、約8万人の会員の皆さまに支えられ、2011年4月で10年目を迎えました。10年という長い間続けてこられたのは、ひとえに約8万人の会員の皆さまの地球環境保全に対する強い想いと支援のおかげです。ここに厚く御礼を申し上げます。

3月11日に発生した東日本大震災では、東北・北関東地方を中心に、多くの尊い命が失われ、各地で壊滅的な被害が発生しました。犠牲になられた方、被災されたすべての方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。当基金としても“環境”を通じた震災復興の観点から宮城県気仙沼市に拠点を置くNPO法人「森は海の恋人」へ支援することにいたしました。豊かな海の恵みは森があってこそ生まれるとの考えに基づき、エコカード会員の皆さまの想いをのせて、東北地方の一日も早い復興を願いつつ、支援していきたいと思っております。

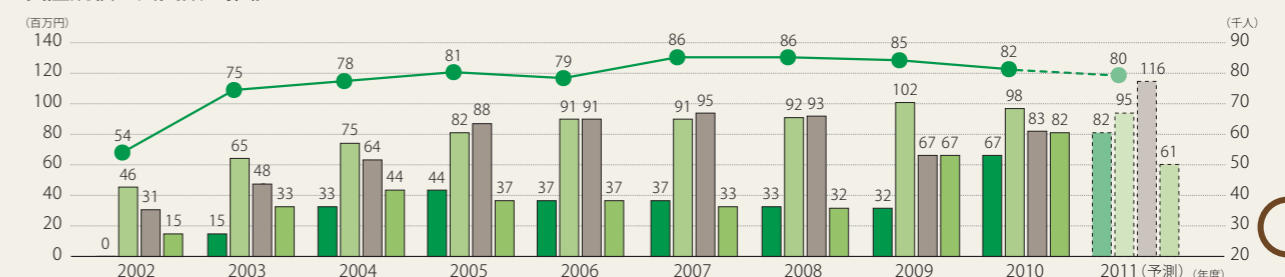
今年は、基金設立10年を記念して、日頃基金を支えていただいている会員の皆さまにより身近にご自宅で環境活動を体験していただくために“いのちとココロを育む「種まき塾の里親プロジェクト」”を実施いたします。ぜひご参加ください。そして4月からは、新たに「生物多様性の保全」をテーマとする4プロジェクトへの支援を開始しました。今後は、会員の皆さまが活動を体験できる機会をさらにつくっていきたくと考えています。

私たちエコカード基金は、会員の皆さまからお預かりした大切な寄付金を、世界各地のさまざまな環境問題の解決のために活用し、透明性と健全性を保って継続的に運営することが重要であると考えます。基金設立10年目という新たなステージを迎え、これまで以上に会員の皆さまとともに、「ずっと地球で暮らそう。」の合い言葉にふさわしい環境保全活動を展開していますので、よろしくお願い申し上げます。

収支報告



資産規模と会員数の推移



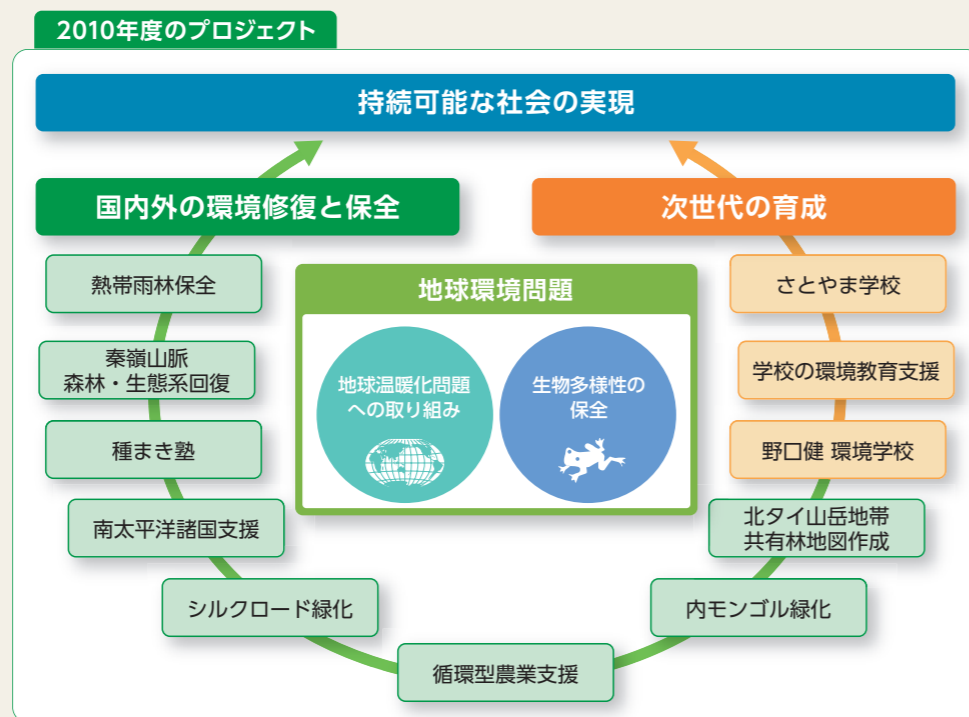
2011年度は予測値です。今年度は、新規5プロジェクトを開始するなど、会員の皆さまからお預かりした寄付金をこれまで以上に環境保全活動に活用してまいります。

収支計算書に対する 独立した公認会計士の レビュー報告書

コスモ石油エコカード基金の委嘱に基づき、同基金の2010年度(2010年4月1日～2011年3月31日)の収支計算書についてレビューを行った結果、収支の状況を適正に表示していないと認められる事項は、すべての重要な点において発見されなかった。
2011年5月20日 公認会計士 加藤 俊也

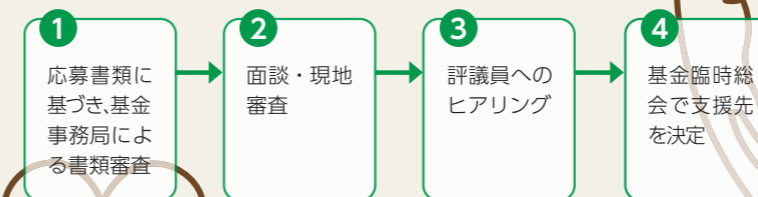
「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトについて

コスモ石油エコカード基金では、「国内外の環境修復と保全」及び「次世代の育成」をテーマに、持続可能な社会の実現をめざしています。本基金で展開している「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトでは、「地球温暖化問題への取り組み」及び「生物多様性の保全」という2つの側面から、環境問題には、貧困、食糧難、教育など、さまざまな社会的な課題が密接に関連しているという現実を踏まえ、本質的な問題解決に取り組んでいます。



2011年4月スタート 新規公募プロジェクト決定しました!

2010年12月から翌1月にかけて新たなプロジェクトを公募し、厳正な審査のもと、3月に4件の支援を決定しました。新しいプロジェクトは主に「生物多様性の保全」を目的とし、エコカード会員の皆さまにも参加していただける機会を設けてまいります。新しい情報は、エコカード基金ホームページでお知らせしますので、ご期待ください。



- 決定!**
- ムササビとともに暮らす 里山再生 (山梨県)
 - どんぐりの森 里山再生(長野県)
 - ピオトー浮島 水辺の生態系回復 (埼玉県)
 - 南太平洋諸国生態系保全 (日本、南太平洋諸国)

東日本大震災の復興支援
「学校の環境教育支援」プロジェクトでつながりのあるNPO法人「森は海の恋人」へ支援(宮城県) 詳しくは同封の報告をご覧ください。



西北大学学生による植樹

① 中国：秦嶺山脈 森林・生態系回復

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、11本の松の苗木を植林しました。

絶滅危惧種のキンシコウやジャイアントパンダなど、希少動物の宝庫である秦嶺山脈で動物の移動を妨げる林道への植林と、動植物の生態研究を通じて森の生物多様性を回復します。2010年度は12kmの道路に9,500本の松の苗木を植林しました。キンシコウの生態についての研究も継続しています。

② 中国：内モンゴル緑化

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、1人の小学生が環境教育を受けました。

沙漠化が進んでいる中国の内モンゴル自治区において、経済的価値の高い沙棘(サジー)の植林と、現地の小中学生に環境教育を実施しています。2010年度は現地の事情で苗基地が突然の移転を余儀なくされましたが、新たな苗基地を設置し、環境教育と植林活動を継続しました。



制作した教材を使って環境教育



北海道・雪原で生き物の痕跡探し

③ 日本：学校の環境教育支援

エコカード会員×894人の支援(寄付金500円/人)で、1校の小中学校が1年間、環境教育を受けました。

自然体験プログラムなどのノウハウを持つ日本各地のNPOと、ノウハウや機会を探している学校をつなぎ、環境教育プログラムを提供しています。2010年度は日本国内9校の環境プログラムを支援しました。1回だけのイベントではなく、屋内と屋外、季節をとり入れた1年間のプログラムによって、身の回りの自然環境へのより深い理解をめざしています。

④ タイ：北タイ山岳地帯 共有林地図作成

エコカード会員×780人の支援(寄付金500円/人)で、1つの村の共有林の地図と「村の百科事典」を作成しました。

北タイ山岳部で、地元住民が森を利用して持続可能な暮らしを営むために、国有化された森を「共有林」として申請するのに必要な地図づくりをしています。また、村のさまざまな情報をまとめた「村の百科事典」を地図とあわせて作成します。2010年度は雨期の豪雨もあって、目標村数の7村中4村にとどまりましたが、活動地域の拡大や他の組織との連携を強化できました。



「村の百科事典」が完成しました

⑤ パプアニューギニア：熱帯雨林保全

エコカード会員×7人の支援(寄付金500円/人)で、1人の農民が5日間農業研修を受けることができました。

パプアニューギニアで、安定した食糧自給や現金収入のために、農業の技術指導と普及に取り組んでいます。2010年度は、研修センターや村に出張して定置型有機農業を教えるとともに、精米機の扱い方の指導や有機肥料(ボカシ)のつくりかた、養豚技術も指導しました。政府からも高い評価を受けており、奨学金による研修生も受け入れています。



稲の収穫と落ち穂拾い

⑥ ソロモン：熱帯雨林保全

エコカード会員×360人の支援(寄付金500円/人)で、研修生1人が1年間、農業研修を受けました。

ソロモン諸島にて、過剰な焼畑農業を抑制し、安定した食糧自給や現金収入を確保するために、定置型有機農業の技術指導と普及に取り組んでいます。2010年度は、21人に1年間の研修を実施。さらに、日本の専門家による土壌の分析と、稲作の技術指導を行いました。2011年度はさらに研修内容を改善し、活動を継続します。



米の収穫(鎌で稲刈り)



苗を紙ネットに つめる

⑩ 日本：種まき塾

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、6本の苗木を供給しました。

「ココロと大地にタネを蒔く」をスローガンに、樹木の種や実生(種から発芽したばかりの木)を集めて成長させ、植林する人たちに苗木を提供しています。地域に元々ある樹種を植えることが、本来の植生回復につながります。2010年度はエゾマツやミズナラなど8,027本の苗木を提供し、育苗・種まき体験には延べ227人が参加しました。

⑨ フィリピン：循環型農業支援

エコカード会員×71人の支援(寄付金500円/人)で、現地女性のエリ蚕飼育指導者1人を育成しました。

フィリピンのパラワン島で、女性の経済的自立のために、キャッサバの栽培指導とエリ蚕の飼育・糸紡ぎ・編み物・織物を教え、さらにこれらを指導できるトレーナーを育成しました。2010年度はプロジェクト最終年として、品質管理と組織の運営システム、販売ルートを確立。現地女性たち自らの運営のもと、自立に向けたスタートを切ることができました。



自分でつくったエリシルクを手に喜ぶ現地女性たち

⑤ 中国：シルクロード緑化

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、31本のサジーの植林ができました。

シルクロードの地、中国の黄土高原では急速に沙漠化が進んでいます。そこで、経済的な価値があり現地の気候に合うサジー(サザンパイン)を植林するべく、苗育成基地をつくって、地元の農民に苗を供給しています。2010年度は12万本の植林ができました。また、中国緑化基金会と中国人口福利基金会から、2009年ベストパートナーとして表彰されました。

この広い山々がいつか緑の大地に



白神山地の巨木の前で

⑥ 日本：野口健 環境学校

エコカード会員×178人の支援(寄付金500円/人)で、“環境メッセンジャー”1人が誕生しました。

自分から環境に対して働きかけ、多くの人にメッセージを発信できる「環境メッセンジャー」の育成を目的に、アルピニストの野口健さんを校長とした「環境学校」を開催しています。2010年度は佐渡島と白神山地で各1回開催し、延べ31人が参加しました。佐渡島では、トキの見学と農作業、自然観察を行いました。白神山地では、山とともに暮らすマタギから、自然の大切さを学びました。

⑦ 日本：さとやま学校

エコカード会員×37人の支援(寄付金500円/人)で、小学生1名が学校田で稲作を体験し、環境教育を受けました。

「里山」の保全・再生と、次世代を担う人材の育成を目的に、長野県飯綱町の耕作放棄地を活用し、農業教育プログラム「さとやま学校」を提供しています。飯綱町の農家が苗を提供、都会の学校にある田んぼでお米をつくり、農家が出張授業を行うことで、食農や環境への意識の向上をめざします。また、雑穀栽培や農村都市交流ツアーなども行っています。2010年度は、小学校3校で164人が参加しました。



学校田で収穫指導

⑧ キリバス：南太平洋諸国支援

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、マングローブを2本、植えることができました。

南太平洋にあるキリバスは海拔が低く、海水面の上昇や波による土地の浸食が起っています。そこで、海岸の浸食を防ぐためのマングローブ植林を、地元の若者や子どもたちとともに進めています。2010年度は、9月と翌2月に、あわせて9,841本のマングローブの種子を植えました。2011年度も地元の住民たちと共同で植林をつづけます。



以前植えたところも順調に育っています

⑧ ツバル：南太平洋諸国支援

エコカード会員×32人の支援(寄付金500円/人)で、環境教育ツールを1つ作り、子どもたちがごみ問題について学ぶことができました。

南太平洋のツバルでは海岸の浸食を防ぐマングローブ植林と、子どもたちへのごみ問題の啓発活動を行っています。2010年度は3千本のマングローブの種子を植えました。また、子ども向けのごみ処理教育用に何度でも遊べるボードゲームをつくりました。さらに地元から要請のあった、他の島での植林可能性を調査しました。2011年度から、新しい場所でも植林を開始します。

植林の様子



コスモ石油
エコカード基金

プロジェクト紹介

皆さまからの寄付金が、2010年度は11プロジェクトの支援に使われました。各活動のプロジェクトパートナーとともに、日本や世界各地で行った活動をご報告いたします。

より詳しい情報が掲載されております。「コスモ石油エコカード基金」のホームページを、ぜひご覧ください。

<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/>

ホーム > 環境活動 > コスモ石油エコカード基金

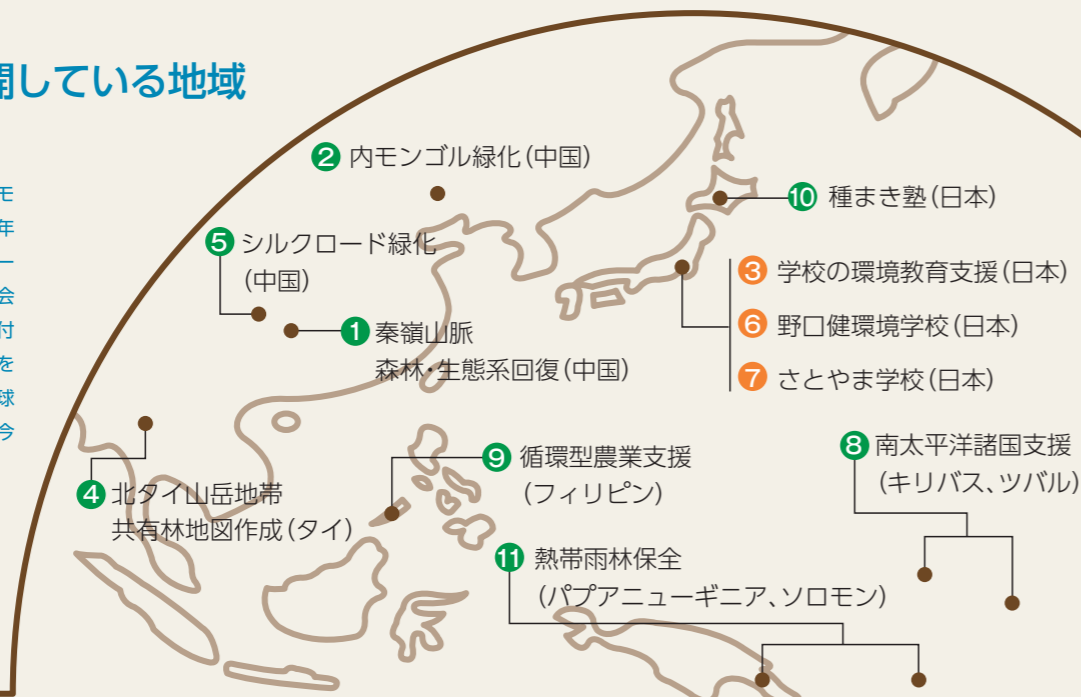
国内外的環境修復と保全プロジェクト

次世代の育成プロジェクト

プロジェクトを展開している地域

プロジェクト概要

当基金は2002年4月に発行した「コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」」と、2006年6月に発行した「コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」」の会員(以下「エコカード会員」)の皆さまからの年間500円の寄付金と、コスモ石油グループの寄付金をもとに、地球環境貢献活動「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを展開し、今年で10年目を迎えました。



コスモ・ザ・カードのご紹介



コスモ・ザ・カード・
オーパス「エコ」



コスモ・ザ・カード・
ハウス「エコ」

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」は、「地球のために何かしたい」という思いを実現するための、どなたでも参加できるカードです。

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」は、お客様から毎年お預かりする500円とコスモ石油グループからの寄付金を、環境保全活動を行うNPOや公益法人などに寄付することで、その活動をサポートしていきます。

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」 コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」
会員の皆さまからの寄付

入会后、及び次年度以降の入会月に500円の寄付をお預かりします



**コスモ石油
グループの寄付**

地球環境保全をサポートする
**「ずっと地球で暮らそう。」
プロジェクトを運営**



コスモ石油グループ会社のエコカード基金への寄付

コスモ石油のグループ会社である株式会社コスモトレードアンドサービスのバッテリー「コスモ ECO.R」ならびにコスモ石油ブリカンツ株式会社の潤滑油「コスモECOシリーズ」の売り上げの一部を寄付していただいております。

コスモ ECO.R <http://www.cosmo-trade.com/>

コスモ ECOシリーズ <http://www.cosmo-lube.co.jp/car/eco.html>

10周年記念「種まき塾の里親プロジェクト」

10周年を記念して、エコカード会員の皆さまに幅広く参加していただけるプロジェクトをご用意しました。「種まき塾の里親プロジェクト」は、会員の皆さまに「種まき塾」で植林する苗木を育てる「苗の里親」になっただけというもの。あなたが育てた苗木が、北海道の自然の一部になります。(応募の方法は、同封の募集チラシをご覧ください)



1日1回の募金を
インターネットから

コスモ石油のクリック募金サイトでは、好きなプロジェクトを選んでクリックすると、クリックの数だけコスモ石油がエコカード基金に寄付します(クリックは1人1日1回まで)。2010年度は7,136,344回(=円)のクリックがありました。

モバイル版クリック募金はこちらから

モバイル版クリック募金には、コスモ石油公式モバイルサイトからも参加できます。



<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/charity/>
ホーム>環境活動>クリック募金

コスモ石油のカードに関するお問い合わせ先

コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」
0120-987-622

携帯電話専用 **03-4330-1660**

月～土曜・祝日 / 9:15～17:30
日曜日 / 10:00～17:30

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」

北日本 **022-771-1500**

東京 **043-296-6200**

中部 **059-353-2100**

大阪 **06-4863-0100**

年中無休 9:00～21:00

コスモ石油
エコカード基金 コスモ石油エコカード基金

〒105-8528 東京都港区芝浦一丁目1番1号東芝ビル
コスモ石油株式会社コーポレートコミュニケーション部CSR・環境室内
コスモ石油エコカード基金事務局 TEL 03-3798-3134

